

野さい作り名人のじいちゃん

鹿児島県
霧島市立富隈小学校三年

中村 樹音

「おまえたちや、いつどきいちべ、いかんか。」と、じいちゃんが言いました。わたしとお姉ちゃんとじいちゃんは、近くの青果市場にトマトとカボチャのお金をうけとりに行ききました。十分くらい車に乗っていると、青果市場に着きました。

青果市場に着くと、小学校の体育館くらいの広さに、たくさん野さいがならんでいました。ふだんから野さいは見なれているけれど、とてもたくさんあったのでびっくりしました。「ヘチマ、オクラ、にがごい、ピーマンがあつど。」と、じいちゃんが野さいをゆびさして、わたしに教えてくれました。

じいちゃんは野さい作りの名人で、畑にヘチマもオクラもがうりもピーマンも育てています。わたしはじいちゃんの野さいが大好きです。「じいちゃん、トマトはいくらしたのかな。」とわたしがつねると、「1はこ八百八十円じゃつど。」と、伝びょうを見せてくれました。わたしもトマトを出かするときに、トマトをふいたり、はこを作ったり、つめたりするのを手伝ったので、トマトが売れたとわかってうれしかったです。だからじいちゃんはわたしをつれてきてくれたのかなと思いました。

じいちゃんが小さいときに、せんそうでじいちゃんのお父さんはしんでしまいました。だから小さいときからじいちゃんのじいちゃんから畑しごとを習って、野さいやお米を作ってきたことを、じいちゃんはよく話してくれます。わたしと同じくらいの年では、牛のさんぼや世話をしていたそうです。わたしなら牛がこわくて世話はできないだろうなと思います。じいちゃんは本当にすごいな、と思います。「じいちゃん、いつまで畑しごとするの。」と、わたしは市場から帰ると中、じいちゃんに聞きました。「しがないさつさ、つくつとよ。」とじいちゃんはにっこりえがおでこたえしました。そのえがおが私の心の中にくこりえました。

わたしは元気ではたらいっているじいちゃんが大好きです。わたしもじいちゃんみたいに、しごとを楽しくがんばれる大人になりたいです。じいちゃんはたくさん野さいをわたしたちに分けてくれます。いつもおいしい野さいをありがとう。

家に着くと、じいちゃんはトラクターに乗って畑に行きました。「じいちゃんかっこいいよ。」と、じいちゃんのうちろすがたを見ながらわたしはつぶやきました。